

《口頭発表》

ピアノ演奏、弾き歌いにおけるリズム指導についての実践報告

Practice report about the rhythm instruction for childcare workers

林 麻由美(千葉敬愛短期大学)

Mayumi HAYASHI

(キーワード)

ピアノ演奏、弾き歌い、拍、リズム、メトロノーム

要旨

発表者は保育者養成校にて17年間に渡りピアノ演奏、弾き歌いの指導を行ってきたが、そのリズム指導において、これまでの指導方法だけでは十分ではないと考えはじめた。数年前から受講しているジャズピアノ講座ではメトロノームを使用する演習が必ずあり、発表者はこの演習を通して拍に対する意識がかなり高まったと実感している。そこで、授業でも意識的にメトロノームを使用していこうと考えた。

正しくリズムを演奏するためには自身で正確に拍をとらなければならない。そのためにはまず正確にきざまれた拍を断片的ではなく、曲1曲分を通して聴くことから始める必要がある。すなわち、まず、拍を聴きながら歌ったり、弾いたりする演習が必要であると考えた。

また、保育現場では、躍動感のある2、4拍子系の楽曲が多く扱われているので、それらを学生が現場でよりその雰囲気近づいたリズム感を持って音楽活動ができるように、メトロノームを使用する練習方法を細かく提示した。

例に挙げた曲は「こいぬのマーチ」「バイエル48番」「おべんとう」である。3曲とも必ず片手ずつで、メトロノームの八分音符のきざみを聴きながら弾く演習を提示した。つまり、四分音符を2つ分のビートで感じる方法である。こうすることにより、ウラ拍を意識するようになる。

片手練習においては、初心者であっても楽曲のテンポ表示の速さに近づくまで繰り返すよう指示した。さらに、指導者が伴奏することにより、学生は、曲全体を体感でき、曲の雰囲気イメージしながら両手練習に取り組めるようになった。

弾き歌いの場合も右手+歌、左手+歌の練習を繰り返すことが大切であると伝え、右手+歌がしっかりできた段階で指導者の伴奏に合わせて、よりリッチになるサウンドを体感した上で、両手+歌の練習に入り、曲の仕上りのイメージを持ちながら、取り組めるようになった。

「おべんとう」のリズムを理解するのが困難である学生が多いが、メトロノームのきざみを聴きながら手拍子することから始め、学生同士のリズムアンサンブルなども行うことにより、以前よりスムーズに理解できるようになった。

メトロノームのきざみを聴きながら演奏する練習をしていくと、次第にメトロノームなしでも拍のきざみが自然に身体の中でイメージできて、正しいリズムで演奏できると考えている。そして、保育現場で多く扱われるリズムカルな曲に、より近づいた雰囲気を持って演奏できると考えている。学生達もこの練習方法により、拍に対する意識が少しずつではあるが、高まってきているので、今後もこの取組みを継続していきたい。